

派遣先大学の情報

2013.11.1 現在



ここに記載された情報は、以前に実際にその大学へ短期留学した方や大学が提供してくれた情報をもとに作成しています。情報提供時と皆さんが実際に留学する時とは、当該国のビザに係る諸手続きや大学の状況などが変わっている場合もありますので、参考程度に留め、必ず自身で最新の情報を確認するようにしてください。

◆アメリカ◆

※学生ビザ（F-1 ビザ）の取得について

<必要書類>

- ・ DS-160（オンライン非移民ビザ申請書）フォーム
- ・ パスポート（滞在予定期間に加えて6ヶ月以上の残存有効期間が必要）
- ・ 5cm×5cmの顔写真（画像ファイル）
- ・ 大使館面接予約確認書
- ・ 米国大学より発行されたI-20（留学生資格証明書）
- ・ I-901SEVIS(Student and Exchange Visitor Information System)支払い確認書（200ドル）
- ・ 預金残高証明書（英文でドル表記のもの。名義は本人でも経費支弁者でも構わない）
- ・ ビザ申請料（160ドル）

◎ビザ等の申請料金の支払いには、クレジットカードが必須な場合もあり、アメリカはカード社会であるため学期中も使用するので、日本にいるうちに自分名義のものを作成しておいたほうがよい。

◎預金残高証明については特に念入りにチェックされるので、各大学から提示されている残高より余裕のある額で証明書を発行すること。必要残高は各州及び各大学によって異なるので確認すること。

◎領事との面接は英語で行う場合と日本語で行う場合と人によって差がある。

参考：米国大使館（東京）

<http://japanese.japan.usembassy.gov/>

※予防接種について

◎自分が生まれてから今までに受けた予防接種を確認するために、家族などに連絡して母子手帳を準備しておくこと。

◎州によって要求される検査項目は若干異なるが、MMR(麻疹、おたふくかぜ、風疹に対する三種混合の予防接種)、ツベルクリン反応やジフテリア、水ぼうそう、はしか、破傷風、ポリオなどの追加接種、日本では義務化されていないB型肝炎の接種などが必要なため、早い時期から計画的に接種していくこと。

◎東京近辺では成人への予防接種を行っている医療機関が比較的探しやすいので、大使館面接に合わせて、東京の病院で受診するのもよい。

◎必要とされる予防接種を受けていないと、寮への申請ができない場合がある。

参考：予防接種について（米国大使館>ビザサービス>移民ビザ>ビザ手続き）

<http://japanese.japan.usembassy.gov/j/visa/tvisaj-ivvaccinechart.html>



《テキサス大学アーリントン校》 <http://www.uta.edu/uta/>

※費用

住居費 : \$540~600 (約¥53,000~59,000) /月 (インターネット代、光熱費込)

食費 : \$1400 (約¥138,000) /学期 (ミールプラン利用)

健康保険料 : \$400 (約¥39,000) /学期

上記食費、交通費、教材費、その他雑費の合計 : \$5200 (約¥512,000) /学期

※宿泊場所

- ・寮、またはアパート。
- ・ほとんどのアパートには、冷蔵庫とストーブ以外の家具がない。

※特記事項

- ・空港までの出迎えあり。

※留学体験者の声

- ・食費で約\$150、家賃に\$200程度の支出。Black Fridayで買い溜めをした。
- ・寮はきれいでセキュリティもしっかりしている。
- ・ミールプランには、約\$300のプリペイドが含まれていて、学内での買い物に利用できるため
その他現金等での支出はなかった。
- ・トルネード接近による避難勧告を体験した。
- ・交換留学生は12単位、4つの授業を選択するよう指導がある。授業は全て英語のため、4つしか履修しなくても、かなり大変だった。
- ・ひとつのエッセイに対する教授からの質問にディスカッション方式で答えていく授業スタイルや、授業を受けた後オンラインやペーパーで宿題を提出するスタイルがあった。

《ニューヨーク州立大学コブルスキル農業・技術大学》 <http://www.cobleskill.edu/home2.asp>

※費用

住居費、食費、プログラム料、健康保険料など : 約\$7000 (約¥689,000)

交通費 : \$50 (約¥4,900) /学期 (バス乗り放題)

教材費 : \$500 (約¥49,000)

※宿泊場所

主に寮を利用。

※特記事項

- ・農業や技術系だけでなく、経済や教養学部などもある。
- ・全ての学部、寮、オフィスなどの施設が一カ所に集結している。
- ・空港から大学までタクシーを利用した場合、約\$120 (¥12,000) かかる。

※留学体験者の声

- ・寮、食堂、図書館、ジムなど生活に必要な設備は大学構内に全てある。
- ・ミールプランがあるので自炊の必要はないが、セメスター開始前に70万程度を一度に支払う必要がある。

《コロラド州立大学》 <http://www.colostate.edu/>

※費用

住居費、食費、教材など： 約¥650,000／学期

健康保険料： 約¥50,000／学期

※宿泊場所

主に寮（ルームシェア）または、キャンパス内アパート（ルームシェア、1人部屋）。

※特記事項

- ・コロラド州が山形県と姉妹州の関係であり、山形大学でも山形市内外の見学や日本文化体験
- ・寒暖の差が激しく、天候が変わりやすい（最低気温が-20度になることもある）

※留学体験者の声

- ・食事はミールプランが充実しているので、食費がかからない。
- ・外食をすると1回約¥700~800程度。
- ・とにかく寒さが厳しく、最高気温が氷点下という日も度々あり、体調を崩す人もいる。
- ・CSUの学生証で周辺のバスは無料で乗車できる。
- ・3月という早い時期から、授業の履修登録等でCSUの担当者と連絡を取り、寮の申込みを始めなければならないので、寮の状況など以前にCSUへ留学していた先輩などから聞いた方がよい。
- ・語学以外の授業では、毎回オフィスアワーに教授を訪ね、授業でわからなかったところを質問したり、提出する課題を事前にチェックしてもらったりしていた。

《オクラホマ大学》 <http://www.ou.edu/web.html>

※費用

住居費： \$1100~1900（約¥108,000~187,000）／学期（留学生専用寮）

食費： \$200~1800（約¥19,600~177,000）／学期

教材費： \$250~800（約¥24,600~78,700）／学期（専攻により異なる）

健康保険料： \$400（約¥39,300）／学期

その他生活費、雑費： \$450~1000（約¥44,200~98,400）／月

※宿泊場所

寮（ルームシェア）もしくは、キャンパス内アパート。

※特記事項

- ・留学期間に応じて（1学期で\$7,500相当、1年で\$13,000相当）の預金残高証明が必要。
- ・寮費については、1学期分を一括で支払う。
- ・空港からの移動手段として、交換留学生用のSNSを通してシャトルバス利用の呼びかけがある。

※留学体験者の声

- ・キャンパス内は見回りの警察がいて、比較的安全である。
- ・「Traditions Square」という留学生専用の寮では、事前に生活時間や学習時間のアンケートをとり、それに基づいてルームメイトを選定してくれるので、スムーズに共同生活が送れる。キッチン・バス・トイレは共用。
- ・キャンパス内はWiFiが無料でどこでも使えるため、ipod touchなどWiFi端末と月\$10程度のプリペイド携帯があれば、生活には困らない。
- ・キャンパスを通るバスはOUの学生証を見せると無料で利用でき、「cartgs」というサイトでリアルタイムにバスの運行状況を見ることができる。

◆イギリス◆

※留学ビザ（Tier 4 ビザ）の取得について

＜必要書類＞

- ・パスポート（6ヶ月以上の有効残存期間）
- ・CAS ナンバー（英国大学発行の入学許可番号）
- ・預金残高証明（英文表記で、申請者名義もしくは両親名義のもの）
（通帳残高の証明金が28日間以上、その口座に入っていることが必要）
（9ヶ月までの滞在の場合、£800(約¥124,000)+授業料以上の資金証明が必要）
（9ヶ月～1年までの滞在の場合、£7200(約¥1,116,000)+授業料以上の資金証明が必要）
（両親名義の場合は、戸籍謄本と資金サポートレターの提出も必要となる）
- ・Appendix8（ビザ申請用紙）
- ・英語能力証明（IELTS もしくは TOEFL iBT）
（ビザ申請の際、iBT72点以上、そのうち speaking で20点以上獲得することが条件となっている）
（語学研修コースの場合は iBT42点以上でビザ申請が出来るが、マンチェスター大学の pre-sessional course に申請する場合、iBT61点以上が必要なので注意すること）
- ・顔写真1枚
◎オンラインで申請した後90日以内にビザ申請センターにて生体認証情報と指紋登録を行うこと。
◎発行までには1～3週間程度かかるので、最低でも出発の1ヶ月前までには、申請を済ませること。
◎ビザの申請料金はオンラインでの支払いとなる。（£298 約 46,190 円）

参考：UK Border Agency

<http://www.ukba.homeoffice.gov.uk/>

駐日英国国境局

<http://www.ukba.homeoffice.gov.uk/countries/japan/?langname=Japanese>

《マンチェスター大学》 <http://www.manchester.ac.uk/>

※費用

住居費：大学宿舎£69～132（約¥10,695～20,460）／週
アパート£300～400（約¥46,500～62,000）／月
生活費：£100（約¥15,500）／週

※宿泊場所

通常、大学宿舎を利用。

※特記事項

- ・英語力が足りないとコーディネーターに判断されると、履修許可が下りない場合がある。

※留学体験者の声

- ・大学から徒歩15分のところに大きなショッピングモールがあるので、買い物には便利。
- ・Pre-sessional course はイギリスでのアカデミックな論文の書き方やプレゼンについてが学習できるし、main course で受講する授業と関連したレポートの提出やプレゼンを行うことになるので、今後の自信にもつながった。また、友人も作ることができ大学生活への不安もなくなったので、iBT のスコアに関わらず、このコースを受講した方がよい。
- ・学生寮は Faculty of Humanities の建物から歩いて20分程度のところにあり、寮の前から無料のバスがでている。13人でキッチンやシャワー・トイレを共有し、寮にはイギリス出身の学生が多い。また、学部学生専用の寮のため、寮内でのパーティーも頻繁に開催されている。
- ・炊飯器や鍋やシーツ類などの生活用品を揃えるために結構費用がかかるし、物価も高いため日本にいるより経費はかかる。
- ・交換留学生はあらゆる分野の授業を受けることができるので、山大での所属学部だけでは学ぶことができなかったような分野についても学べる。講義で使用されるパワーポイントのデータは大学のWebサイトから入手することができるので、予習をすることができる。授業では、予習をしたうえでわからないところを集中的に聞くことが望ましい。

◆ロシア連邦◆

※留学ビザの取得について

<必要書類>

- ・パスポート（6ヶ月以上の残存有効期間と見開き2ページ以上の余白が必要）
- ・招待状（ロシア内務省の旅券査証課で発行された原本）
- ・ビザ・サポート確認書
- ・オンライン査証申請フォームの写し
- ・非AIDS検査診断書（検査日から3ヶ月以内のもの）
- ・顔写真1枚（4.5cm×3.5cm、申請用紙に貼り付けのこと）

◎ブリヤート大学のあるロシア連邦ブリヤート共和国のビザは、在新潟ロシア連邦総領事館のみで申請可能。受付時間は平日の午前中のみなので注意すること。

◎ビザ発行手数料は、申請日に領事部のビザセクション支払い窓口にて、現金（日本円）にて支払う。手数料は受取日までの所要時間、または期間中の入国回数によってことなる。（申請日に選択できる。）

1週間後の受取：無料

翌々日の受取：8,000～20,000円

翌日の受取：24,000～32,000円

参考：Embassy of the Russian Federation in Japan
<http://www.rusconsul.jp/hp/index.html>

《ブリヤート大学》 <http://en.bsu.ru/>

※費用

住居費：約¥13,000/月

食費など：約¥20,000～30,000/月

健康保険料：約¥130,000/年

※宿泊場所

留学生寮（バス・トイレ・台所共用）を利用。

※特記事項

- ・有料の語学研修制度あり。（約¥102,000～135,000）

※留学体験者の声

- ・ブリヤートまでは、飛行機とシベリア鉄道を乗り継ぎ、3日間かかった。
- ・授業料や寮費の支払い、履修登録などロシア語で行われるため、最初の頃は大変だった。
- ・寮ではキッチンを大人数で共有するため、夕食時には混雑するので、お湯が出なくなったりする時がある。
- ・9月初旬からダウンジャケットなどが必要になるため、渡航の際に用意してきた方がよい。
- ・寮の近くにはスーパーや洋服屋があり、近くのバス停から大きなショッピングセンターや市場に行くこともできるため、生活には便利である。

◆エストニア共和国◆

※ビザの取得について

<必要書類>

- ・パスポート（無査証滞在の終了時から3ヶ月以上の有効残存期間と空白の査証欄連続3ページ以上必要）
- ・申請書（警察・国境警備隊委員会のオフィスやウェブにて入手可）
- ・受入大学からの入学許可証
- ・経済支弁者の所得証明書（英文にて表記された、支弁者の勤務先が発行したもの）
（€58（約¥7,700）／日の生活費があることを証明する）
- ・現地保険会社での保険加入証明書（英文表記）
- ・顔写真（3.5cm×4.5cm）
- ・申請料€80（約¥8,250）

◎さしあたって、観光ビザにて入国することとなるため、予め日本で準備すべき書類を確認しておくこと。

◎90日以上滞在する場合は、入国後に警察・国境警備隊委員会の事務所で「Long-Stay(D)ビザを申請する。

参考：在日エストニア共和国大使館

<http://www.estemb.or.jp/jp>

《タリン大学》 <http://www.tlu.ee/en>

※費用

- 住居費： 寮約 13,000～15,000 円／月
 アパート€200～400（約¥26,600～53,200）／月
- 食費： €200～300（約¥26,600～39,900）／月
- 交通費： €30～40（約¥3,900～5,300）／学期。
- 健康保険料： €300（約¥39,900）／学期

※宿泊場所

留学生寮、またはアパート。

※特記事項

- ・寮は2人一部屋で、バス・トイレを4人で共用し、キッチンも8人で共用する。
- ・長期休暇中には、サマースクールやウィンタースクールなどの語学研修プログラムがある。

※留学体験者の声

- ・最初に留学生向けのオリエンテーションがあり、履修方法や期限、寮についてなど大学生活に関する大事な情報がある。もちろん全て英語で行われるので、聞き漏らさないように細心の注意を払い、もしわからなければ必ずスタッフに質問するようにすること。授業の最初のオリエンテーションでも同様に、必要なテキストや教室について案内があるので絶対に「わかったフリ」はしないこと。
- ・渡航前に事前に授業を履修しなければいけないので、タリン大学のHPなどで授業内容をしっかり確認し、自分の英語能力に合わせて授業をとるべき。英語力に見合った授業数や授業内容でないと、単位を落とすことになる。
- ・現地での住所登録や寮やアパートの契約の際、電話番号が必須となるので携帯電話の購入が必要。
- ・10月頃から日照時間が短くなり、1月には朝9時に日が昇り、15時には沈む。
- ・冬がとにかく長いので、防寒具は特に良い物を用意した方がよい。

◆ラトビア共和国◆

※ビザ取得について

- ◎ビザの取得はラトビア国内にて行い、到着後3ヶ月以内に取得しなければならない。
 - ◎必要資料提出の約30営業日後にミーティングタイムが指定され、書類に不備がある場合はその際に追加資料などの要請があり更に時間を要する場合もあるので、到着後なるべく速やかに手続きを始めること。
- <必要書類>
- ・ Residence permit(住民許可)申請書
 - ・ パスポートのコピー
 - ・ 顔写真(サイズ指定なし)
 - ・ 健康保険書(原本、コピー各1通)
 - ・ ラトビア大学からの住宅許可書
 - ・ X線診断結果のコピー(X線の写真。証明書は不可。費用は6Lats)
 - ・ クレジットカードの残高証明(銀行の公印があるもの)
- ◎Residence permitは10枚あり、英語・ロシア語・ラトビア語で表記されているが、スペルミスでも罰金が科せられる場合があるので、記入後バディーなどに確認してもらうこと。
 - ◎保険については、日本の保険ではカバーしていないものもあるので、現地の保険に入った方がよい。(VISA用の保険パックのようなものを扱っている会社もある)
 - ◎住宅許可書は在学証明書も兼ねており、ラトビア大学より学生カードと共に渡される。
 - ◎移民局では基本的に英語が通じないので、ラトビア語の出来る人と行くようにすること。

《ラトビア大学》 <http://www.lu.lv/eng/>

※費用

- 住居費 : 寮 €70(約¥9,300) / 月 (電気・水道代込み)
- 学外アパート €130(約¥17,300) / 月
- 食費 : 約€350(約¥46,600) / 月
- 交通費 : €20(約¥2,600) / 月
- 教材費 : €23(約¥3,000) / 学期 (コピーによるもの)
- 健康保険料 : €20(約¥2,600) / 月

※宿泊場所

主に留学生寮を利用。

※特記事項

- ・ Erasmus Student Network(ESN)という留学生ネットワークのサポートシステムがあり、空港への出迎えや各種行事を企画している。
- ・ 1年を通じて、山形の気温-10度くらいの気候である。
- ・ 留学保険については、ビザ取得の際必要なので、現地で加入する。

※留学生体験者の声

- ・ 銀行や保険会社など、英語が可能な機関もあるが、ラトビア語のみの機関の方が多い。
- ・ ラトビア大学でのバディー制度(チューターのような制度)により紹介されたバディーに各種手続きなど、手伝ってもらった。バディーは学生や社会人と様々。
- ・ 大学内に Language Center という機関があり、英語も教えている。
- ・ 授業は4月から始まったり、2月だけだったり、夕方から夜10時までだったりと開講されている期間も時間帯も様々である。

◆リトアニア共和国◆

※ビザの取得について

<必要書類>

- ・パスポート（3ヶ月以上の残存有効期間が必要）
- ・申請書（大使館HPよりダウンロード）
- ・カラー証明写真1枚（35×45mm）
- ・承認された招待状（大学から発行される入学許可証など）
- ・健康保険の補償範囲を証明する書類。
- ・リトアニア移民局より発行される一時滞在決定通知

◎必要な書類やビザ発行料金は滞在期間や滞在方法により異なるので、各個人で必ずリトアニア大使館へ問い合わせること。

◎書類を提出する際には、必ずリトアニア大使館へ事前にメールをすることが必要となる。

参考：在日リトアニア共和国大使館
<http://jp.mfa.lt>

《ビルニウス大学》 <http://www.vu.lt/en/>

※費用

- 住居費：寮 ダブルルーム 170Lt~200Lt（約¥6,460~7,600）／月
- 食費：約600Lt（約¥22,800）／月
- 教材費：約300Lt（約¥11,400）／月

※宿泊場所

留学生寮を利用。

※特記事項

- ・9月の1週目から2週目にかけて、オリエンテーションウィークとして、英語で行われるリトアニア語講座が毎日ある。
- ・留学生担当のようなセクションはない。

※留学生体験者の声

- ・未だユーロ通貨を導入していないため物価が比較的安く、レストランで食事をしても600円ほどしかかからず、生鮮食品や乳製品なども非常に安いので自炊をすればかなり食費は安くなる。
- ・9月に入るとすぐに最低気温がマイナスになるので、渡航する際に防寒着も用意してきた方がよい。
- ・山形大学でいうチューターのようなメンターと呼ばれる人がいて、インターナショナルフェアや郊外への小旅行やパーティーなどといった各種イベントを企画している。各国大使館の方と会食をするアンバサダーデイもある。
- ・授業では発言の機会が多く、そこで自分の意見を述べられないと「授業を理解していない」と評価されるため、英会話能力が必須。

◆中華人民共和国◆

※留学ビザ（X1 ビザ：長期 180 日以上、X2 短期ビザ：180 日以下）取得について

＜必要書類＞

- ・パスポート（6 ヶ月以上の有効残存期間と 2 ページ以上の査証欄の余白が必要）
 - ・中華人民共和国査証申請表
 - ・顔写真（3cm × 4cm）
 - ・受入大学の入学許可証（原本とコピー各 1 通）
 - ・受入大学発行の招聘状（JW202 または JW201）（原本とコピー各 1 通）
 - ・外国人体格検査表（原本・コピー各 1 通）
 - ・血液検査や心電図など、病院で発行された資料全て（原本・コピー各 1 通）
- ◎ 外国人体格検査表については、国立・公立病院か日中友好病院でなければ発行・証明ができない。（山形県内では、国立病院機構山形病院、山形県立病院、山形市立病院済生館で受診可能）（HIV、B 型肝炎、梅毒の検査は必須）
- ◎ 招聘状（JW202 または JW201）が、大学から送付されてくる際に誤表記がある場合があるので、書類を受け取ったらまずは記載事項に誤りがないか、必ず予め確認すること。
- ◎ X ビザで入国した場合は、入国後 30 日以内に現地の公安機関で居留許可取得をすることが義務付けられている。
- ◎ それぞれの原本は、ビザ取得後にパスポートと共に返却される。

参考： 日本学生支援機構・中国留学情報

http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_03_04.html#china

中華人民共和国駐日本国大使館 領事業務

<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/lsfu/>



《吉林大学》 <http://jlu.edu.cn/University/>

※吉林省長春に位置する。

※費用

住居費 : 寮 1,000 元 (約¥16,000) /月
 アパート 2,000 元 (約¥32,100) /月
食費 : 1,000 元 (約¥16,000) /月
健康保険料 : 300 元 (約¥4,800) /学期

※宿泊場所

留学生寮 (2 棟) を利用。

※特記事項

- ・ 空港まで無料の出迎えあり。
- ・ 交換留学生のための、無料の中国語コースがある。

※留学体験者の声

- ・ 自炊しているので、食費は 1 日当たり 10 元 (約¥130) 程度。
- ・ 11 月に入って気温が下がり、氷点下 10 度~15 度の日が多くなった。

《延辺大学》 <http://www.ybu.edu.cn/>

※吉林省延吉市に位置する。

※費用

住居費 : 寮 4,400 元 (約¥70,700) /学期
教材費 : 200~300 元 (約¥3,200~4,800) /学期
食費 : 約 4,000 元 (約¥64,300) /学期
インターネット代、光熱費など : 約 1,000 元 (約¥16,000) /月
健康保険料 : 300 元 (約¥4,800) /学期

※宿泊場所

主に留学生寮を利用。

※特記事項

- ・ 夏期休暇中に 3 週間、または 4 週間の国際大学キャンプがある。
- ・ 中国で最も多く朝鮮族が居住する延吉市に位置するため、留学生の約半分が韓国人。
- ・ 2012 年 8 月に『山形大学短期留学生受入プログラム』にて、10 名の学生を受け入れ。

《哈爾濱工業大学》 <http://hit.edu.cn/>

※黒竜江省ハルビン市に位置する。

※費用

住居費 : 寮 650 元 (約¥10,459) /月
食費 : 約 1,000 元 (約¥16,000) /月
教材費 : 約 200 元 (約¥3,200) /月

※宿泊場所

留学生寮を利用。

※特記事項

- ・ 空港まで無料の出迎えあり。
- ・ 哈爾濱工業大学から山形大学へ多数の留学生が来ているので、実際の講義や大学生活については、留学生に直接聞くことが可能である。

《北京林業大学》 <http://www.bjfu.edu.cn/>

※北京市海淀区に位置する。

※費用

住居費	:	寮 (2 人部屋)	60 元 (約 ¥780) / 日	(光熱費、水道代別途)
		寮 (1 人部屋)	80 元 (約 ¥1,200) / 日	(光熱費、水道代別途)
		アパート	2,000 元 (約 ¥32,100) / 月	
食費	:		1,000 元 (約 ¥16,000) / 月	
教材費	:		300 元 (約 ¥4,800) / 月	
健康保険料	:		600 元 (約 ¥9,600) / 年	

※宿泊場所

留学生寮を利用。(1 人部屋、もしくは 2 人部屋)

※特記事項

- ・ 空港まで無料の出迎えあり。
- ・ 北京大学、精華大学など北京の主要な大学が集中する大学通りの一角に立地。

※留学体験者の声

- ・ チューター制度はないので、大学内の日本語学科の先生にコンタクトを取り、日本語を勉強している生徒を紹介してもらい、手助けをしてもらっている。
- ・ 学食を利用しているが、1 食 15 元 (約 ¥200) で、かなりのボリュームある食事が出来る。

《河南師範大学》 <http://www.henannu.edu.cn/>

※河南省新郷市に位置する。

※費用

住居費	:	2,250~9,000 元 (約 ¥36,200~144,800) / 学期
食費	:	3,000 元 (約 ¥48,200) / 学期
インターネット代、光熱費、その他雑費	:	1,000 元 (約 ¥16,000) / 学期

※宿泊場所

留学生寮を利用。(2 人部屋)

※特記事項

- ・ 空港までの無料出迎えあり。
- ・ 語学研修プログラムあり。
- ・ 中国語のチューター制度があり、週 1 時間は大学が費用を負担。
(1 時間以上は 10 元 (約 ¥130) / 時間)

《青島農業大学》

<http://www.study-in-china.org/jp/school/qnu/index.asp>

※山東省青島市に位置する。

※費用

住居費	:	寮 700 元 (約 ¥11,200) / 月
食費	:	10~30 元 (約 ¥160~480) / 日
交通費	:	1~2 元 (約 ¥16~32) / バス
教材費	:	200 元 (約 ¥3,200) / 学期
健康保険料	:	200 元 (約 ¥3,200) / 学期

※宿泊場所

留学生寮 (2 人部屋、4 人部屋)

※特記事項

- ・ 空港までの出迎えあり。
- ・ 中国語以外の言語での授業はない。

◆台 湾◆

※ビザの取得について

《必要書類》

- ・パスポート（6ヶ月以上の有効残存期間が必要）
- ・査証申請書（オンライン申請後、プリントアウトし、署名したもの）
- ・顔写真2枚（4cm×5cm）
- ・受入大学発行の外国交換学生入学許可証書（原本・コピー各1通）
- ・健康診断書（3ヶ月以内に受診したもので、HIV検査必須。所定フォーム有）
- ・査証手数料（短期停留査証¥4,500、長期居留査証¥6,000）

◎2012年4月より専用ウェブサイト:(<https://visawebapp.boca.gov.tw/>) にアクセスして個人情報をオンライン登録し、登録後ビザ申請書をプリントアウトし署名することが必要となった。

◎郵送での申請は不可のため、申請人本人または代理人が直接、在日台北経済文化代表処の窓口にて申請すること。

◎窓口申請の際「FS-〇〇大学外籍交換学生注記」と記してもらうよう、必ず依頼すること。（注記がないと、入国後滞在延長の手続きが行えない）

◎6ヶ月留学の場合、観光ビザで入国後、2ヶ月毎に現地入国管理局にて滞在延長の手続きを行う方法か、日本で短期停留査証を取得する方法がある。

◎1年留学の場合は、観光ビザで入国後、現地入国管理局にて在留資格書き換えの手続きを行う方法と、日本で長期居留査証を取得し、現地入国管理局にて居留証を取得する方法がある。

◎短期停留査証と長期居留査証では、必要書類が多少異なるので注意すること。

参考：台北駐日経済文化代表処

<http://www.roc-taiwan.org/JP/mp.asp?mp=202>



《銘傳大学》 <http://www.mcu.edu.tw/>

※台北市に位置する。

※費用

住居費	:	アパート	6,000 元 (約¥96,400) /月
食費	:	約 4,000 元	(約¥64,200) /月
教材費	:	約¥6,000	/学期
健康保険料	:	約¥10,000	/学期

※宿泊場所

留学生寮があるが、プライバシーやセキュリティの事情により、大学周辺のアパートを勧められる。(インターネット設備あり)

※特記事項

- ・交換留学生のための無料の中国語学習があり。
- ・空港までの無料の出迎えあり。

※留学体験者の声

- ・キッチンがないため、食事は外食となるので、栄養バランスが偏る。
- ・月の出費のうち、食費が占める割合が大きい。(月¥2,000程度)
- ・アパートの水道水は飲めないが、水とお湯が出る給水器があるので不便しない。
- ・大学内でクラスがあり、毎週ホームルームがある。(クラス毎の活動が多い)
- ・中国語の授業では、フェイスブック上で課題を提出したり、連絡事項が流れたりする。
- ・キャンパス周辺で断水になることがたまにあるので、フェイスブックで銘傳大学に「いいね」をしておくとそのお知らせなども届くので便利。
- ・アパートではケーブルテレビとネットをセットで契約しており、通信料も家賃に含まれているため、LANケーブルを挿せばすぐにネットが利用できる。
- ・各学科の学生による学生会活動が盛んで、新入生と先輩の交流会や新入生だけの新入生キャンプなどがある。
- ・大学から徒歩 15 分程度のアパート「大学城」は市街に行くバス停も近く、生活には非常に便利。家賃は 1ヶ月 6000 円で、半年分を一括で支払う。光熱費は 2ヶ月毎の支払い。

《中山大学》 <http://www.sysu.edu.cn/2012/cn/index.htm>

※高雄市に位置する。

※費用

住居費	:	寮	143,000 台湾ドル (約¥47,800) /学期
	:	アパート	8,000~12,000 台湾ドル (約¥26,700~40,100) /月
食費	:	8,000 台湾ドル	(約¥26,700) /月
教材費	:	5,000 台湾ドル	(約¥16,700) /学期
交通費	:	3,000 台湾ドル	(約¥10,000) /月
健康保険料	:	291 台湾ドル	(約¥970) /学期 (1年以上の留学の場合)
	:	749 台湾ドル	(約¥2,500) /月 (1年間の留学の場合)

※宿泊場所

学生寮を利用。

※特記事項

- ・寮は申請した順に入居許可がされる。
- ・寮の家賃は夏季、冬季は追加料金あり。
- ・中国語学センター提供のサマープログラムへの参加が可能。
- ・空港までの出迎えあり。

◆大韓民国◆

※一般研修ビザ（D-4 ビザ）の取得について

《必要書類》

- ・パスポート
- ・ビザ発給申請書（写真添付、大使館又は領事館窓口にて受取）
- ・受入大学の入学許可証
- ・山形大学の在学証明書
- ・英文預金残高証明書（300 ドル以上で、韓国への送金証明書や両替証明書、経費負担確認書でも可）
（親名義の場合は戸籍謄本が必要）
- ・顔写真（3.5cm×4.5cm）

◎ビザ発給申請書は領事館窓口にて受取り、写真を添付して提出すること。

◎大学間学術交流協定による研修のため、D-2（留学）ビザではなく、D-4（一般研修）ビザを取得すること。

◎入国後、90 日以内に滞在地管轄の入国管理事務局または出張所で、外国人登録をすること。

参考：駐日本国大韓民国大使館

<http://jpn-tokyo.mofa.go.kr/worldlanguage/asia/jpn-tokyo/main/index.jsp>

日本学生支援機構（JASSO）留学情報提供について

http://www.jasso.go.jp/study_j/info.html

《全南大学》 <http://www.jnu.ac.kr/jnumain.aspx>

※光州広域市に位置する。

※費用

住居費：₩1,441,500（約¥132,300）／学期（3食食費、光熱費、水道代、インターネット代含む）

教材費：約₩100,000（約¥9,100）／学期

その他生活費：約₩400,000（約¥36,700）／学期

※宿泊場所

学内の学生寮（2人部屋）を利用。（シャワー・トイレは各室付）

※特記事項

- ・韓国語の授業（1日1時間又は90分授業を7週間）を2回まで無料で受講できる。
- ・全南大学の学生による、チューター制度あり。

※留学体験者の声

- ・ソウルから光州まで高速バスで4時間、料金は2万8千円。光州から大学までは、タクシーで₩4,500（約¥410）。
- ・大学内の閲覧室は夜12時、寮内の閲覧室は夜12時半まで利用できる。そこで勉強をしている。
- ・最初の1週間はオリエンテーションだったため、韓国に来てからの履修変更が可能だった。
- ・空港での迎えが来るという連絡があったのだが、『何時にどこで』という確認をしなかった。で、空港で7時間も待つことになってしまった。
- ・渡航前に履修申請をしていたが、留学生には難しい授業もあるようなので、最初は留学生向けの授業を受けた方がいいと思った。
- ・大学の敷地が広い。ため、教室移動が30分以上かかる場合もあるので、それをふまえて授業を取る必要がある。

《仁済大学》 <http://www.inje.ac.kr/>

※慶尚南道金海市に位置する。

※費用

住居費 : 寮W1,090,000 (約¥100,000) / 学期 (1日2食の食費込み)

学外アパート W1,000,000 (約¥91,800) / 学期

保証金W3,00,000~5,000,000 (約¥275,400~459,000)

食費 : 約W3,000 (約¥275) / 1食 (学内食堂使用の場合)

交通費 : 約W1,000 (約¥91) / バス、地下鉄

教材費 : 約W25,000 (約¥2,200) / 学期

健康保険料 : 約\$187 (約¥18,300) / 年

※宿泊場所

留学生寮を利用。(2人部屋) (シャワー・トイレ共用)

※特記事項

- ・空港までの無料出迎えあり。
- ・仁済大学生によるチューター制度あり。
- ・3月初旬から6月中旬と9月初旬から12月中旬に韓国語研修プログラムあり。
(W1,700,000 (約¥156,000) / 学期)

※留学体験者の声

- ・寮の暖房は集中管理なので、自分での体温調整が必要。
- ・昼食代は1回約W3,000 (約¥270)、洗濯・乾燥機代が週1回でW4,000 (約¥360)
- ・寮内の共同スペースは清掃係員が掃除しており、住人も綺麗に使うよう心掛けている。

《大邱大学》 <http://cms.daegu.ac.kr/diakorean/>

※慶尚北道慶山市に位置する。

※費用

住居費 : 学外アパート W300,000~400,000 (約¥27,500~36,700) / 月

寮の場合、無料

食費 : 約W300,000 (約¥27,500) / 月

交通費 : W1,100~2,200 (約¥100~200) / バス

※宿泊場所

学生寮を利用。

※特記事項

- ・空港まで無料の出迎えあり。
- ・韓国語語学研修プログラムあり。(出願料W50,000 (約¥4,500) 短期間W400,000 (約¥36,700)
長期間W950,000 (約¥87,200))

※留学体験者の声

- ・学内での食事は約¥200で、学外では¥500もあれば十分である。
- ・交換留学生以外にも語学研修生を受け入れているため、現地の韓国人学生と触れ合う機会はありません。
- ・TOPIK3級以上程度の韓国語能力があると認められないと、語学研修以外の授業は受けられない。

◆タイ王国◆

※留学ビザ取得について

<必要書類>

- ・ビザ申請用紙（大使館 HP よりダウンロード可能）
- ・パスポート（6ヶ月以上の有効残存期間と査証欄の余白1ページ以上が必要）
- ・顔写真2枚（4.5cm×3.5cm）
- ・航空券もしくは予約確認書（航空会社もしくは旅行会社発行のもので、搭乗者名、タイへの出入国日と便名が記載されているもの）（写しでも可）
- ・英文入学許可証の原本（大学のレターヘッド入り用紙で作成され、学校総長の署名があるもの）
- ・英文経歴書1部（大使館 HP よりダウンロード可能）
- ・山形大学からの英文推薦状（原本）
- ・山形大学在籍証明書
- ・申請料シングル 9,000 円、マルチ 22,000 円（現金にて支払い）

◎申請は本人が直接大使館へ行くこと。（郵送申請や代理申請不可）

参考：在京タイ王国大使館

<http://www.thaiembassy.jp/rte1/>



《コンケン大学》 <http://www.kku.ac.th/>

※費用

- 住居費 : 学内 9,600Baht (約¥3,200) / 学期
学外 9,000Baht (約¥3,000) / 学期
- 食費 : 約 3,000Baht (約¥1,000)
- 教材費 : 約 1,000Baht (約¥300)

※宿泊場所

主に留学生寮を利用。

※特記事項

- 有料にて空港への出迎えあり。（80～100Baht 約¥27～30）
- 英語研修プログラムあり。（5月開講、受講料 5,000Baht 約¥1,700）
- タイ語研修プログラムあり。（6月～7月開講、受講料 5,000Baht 約¥1,700）

※留学体験者の声

- ・生活面では日本とあまり変わらないが、熱帯のため非常に暑い。
- ・移動手段は徒歩が主となるが、交通事情が悪いため、道路の横断などには特に注意しなければならない。

◆ブルネイダルサラーム◆（英語）

※学生ビザの取得について

<必要書類>

- ・パスポート（入国の際に6ヶ月以上の有効残存期間が必要）
- ・顔写真（4.5cm×3.5cm）
- ・航空券の写し
- ・ブルネイダルサラーム文部省からの招聘状
- ・山形大学からの推薦書
- ・申請料（BMD15 約¥890）（日本円での支払いも可能）

参考：Embassy of Brunei Darussalam in Tokyo
<http://www.bruemb.jp/>



《ブルネイダルサラーム大学》 <http://www.ubd.edu.bn/>

※費用

- 住居費 : 旧学生寮 無料にて提供（ミールクーポンなし、保証金 BND60≒¥4,700）
新学生寮 BND250～350（約¥19,700～27,600）／月
- 食費 : \$300（約¥29,500）／月
- 交通費 : \$40（約¥3,900）／月
- 健康保険料 : \$40（約3,900）／月

※宿泊場所

主に留学生寮を利用。

※特記事項

空港までの出迎えあり。（2週間前までに要予約）

◆ボリビア◆（スペイン語）

※ビザの取得について

◎まずは観光目的（ビザ不要）で入国し、一度現地の入国管理事務所にて 30 日の学生ビザを取得し、その後長期（1 年）の学生ビザへ切り替える。

◎入国の際、発行後 10 日以上経ったイエローカード（黄熱病予防接種証明書）の提示が必要。

<30 日ビザに必要な書類>

- ・パスポート（顔写真ページと入国スタンプのあるページのコピー）
- ・公証人による紹介状（長期滞在の目的を明記したもの）

◎30 日ビザ取得後、以下の書類を現地にて用意する。

<長期ビザ必要な書類>

- ・パスポート（原本と、顔写真ページ、入国スタンプのページ、30 日ビザのページのコピー）
- ・宣誓書
- ・ボリビア大学からの入学許可証
- ・インターポールからの無犯罪証明書
- ・現地警察からの無犯罪証明書
- ・現地警察からの住所証明書
- ・INSO の診断書（感染症にかかっていないことの証明）
- ・領事館からの経済証明書（経費支弁者や奨学金など、生活が維持できることの証明）

◎インターポールや警察にて証明書を発行する際に、必要な書類が種々あるので、よく確認すること。

《サンアンドレス大学》 <http://umsa.edu.bo/>

※費用

住居費 : アパート 約 ¥20,000~35,000/月

食費 : 約 ¥15,000/月

健康保険料 : 約 ¥3,500/月

※宿泊場所

学外アパート（新聞広告などで探す）

※特記事項

- ・授業については、一部英語で行われているが、基本的にはスペイン語である。
- ・標高 3,500m に位置するため、現地に慣れるまで高山病対策も必要。
- ・政治情勢によって、渡航が不可能な場合もある。

※留学体験者の声

- ・留学ビザの申請は、非常に複雑で書類不足で何度も跳ね返されるなど、多大な時間を要した。
- ・山大の大学院へ入学する国費留学生に日本語を教えていたが、日本語をスペイン語で教えることで、自分の勉強にもなった。
- ・ラパスの日本人会が開催するイベントや JICA 関係者、NPO などのボランティアとして派遣された人々と出会ったことで、自分の人生について深く考えることができた。